

# 生物系研究室セミナー

## 福島県のカニムシ相など

大平 創(塘研究室博士3年)



カニムシはクモ綱に属する小型の節足動物です。近年の分類学的な研究の進展に伴って、カニムシの分類体系が変化しました。標本の再同定や県内の新しい採集記録を加え、福島県のカニムシ相を整理したので報告します。併せて、第17回国際土壌動物学会議での参加、発表報告および、韓国でのカニムシ調査について報告します。

## 河川中の基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ産生大腸菌群

齋藤 紘輝(難波研究室修士2年)

基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ(Extended Spectrum beta-lactamase; ESBL)は、抗生物質分解酵素の1種です。ESBL産生菌は臨床分離株での研究は盛んに行われていますが、自然環境中での知見は不足しています。本発表では、阿武隈川とその支流、下水処理場放流水から得られた菌株の分析結果を紹介致します。



## 沼沢湖の放射性セシウムの動態および安定同位体比分析を用いた食物連鎖解析

山田 恭央(難波研究室修士2年)



沼沢湖の重要な魚種であるヒメマスは原発事故後しばらくして、放射性セシウム濃度が100 Bq/kgを超過し、季節的な周期変動を繰り返しています。その原因として、季節ごとにヒメマスの摂餌対象が変化するため、または、水中の放射性セシウムの形態が変化するためと考えられています。今回は、ヒメマスの餌の推定および放射性セシウムの動態についてお話しします。

## 現生木を用いた年輪酸素同位体比の地域的差違の検討

尾本 雄道(木村研究室修士2年)

樹木年輪セルロース酸素同位体比は木材の年代決定や古気候復元に適したツールの一つです。本発表では、東北地方、関東地方、中部地方の酸素同位体比データを用いて、地域によって差違があるとされる酸素同位体比の面的な解析の結果を発表します。



生物系研究室セミナーは、生物学の教育研究の活性化を目的として、毎月1回程度行っています。共生システム理工学類生物系の5研究室(兼子研, 木村研, 黒沢研, 塘研, 難波研)と人間発達文化学類の1研究室(水澤研)で運営していますが、興味のある方はどなたでも参加できます(特に、6研究室配属希望の1,2年生歓迎)。お問い合わせ先; 黒沢高秀 e-mail; [kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp](mailto:kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp)

### 今後の予定

11月16日 難波, 塚田(環境放射能研)

12月21日 野田(難波研D1), 志賀(奥田研M1), 後藤(水澤研M1), 當間(塚田研M1)

1月18日 緒勝(塘研D1), 林(塘研M1), 佐藤(兼子研M1)